

「ごんぎつね」本時の目標:話し合いを通して、ごんの思いの変化に気づき、そのことを自分の言葉や文章で表現できる

変化した

㊦ ごんの「気持ち」は変化したのか、変化しなかったのかについて自分の考えをまとめよう

変化していない

- 自分がうなぎを盗ったことに後悔や責任を感じていて、兵十や加助が「神様の仕業」と言っても、次の日もくりを持って行ったから。
- 神様のせいにして、「わりに合わない」と思っていたが、自分のいたずらのせいだとやっぱり思って、次の日もくりを持っていったのではないかと思った。
- 自分が持って行っていることに気付いてほしいのは、きっと償いの気持ちがあるから、許してほしいから家に入った。だからごんの気持ちは償いの気持ちのままじゃないかと思う。

児童の質問

- なぜ、ごんは兵十と友達になりたいと思っているのですか。うなぎを盗って、怒っているかもしれないですね。
- くりを持って行っているのが、ごんだと気づかれたら、本当に友達になれるのかな。

質問に対する答え

- 教科書の「おれと同じひとりぼっちの兵十か」の「おれと」の「と」に注目して、ひとりぼっち同士と思い、仲間意識が出てきたと思ったからです。
- ごんの「友達になりたい」という思いが兵十に伝わると思う。
- 兵十は誰が持ってきてくれるのか、不思議に思っていたから、知ったら「ありがとう」と思ってそこから友達になれると思う。

小金色の深い学び

- 最初は自分がうなぎを盗って、兵十に「ごめんな」という気持ちでくりや松茸を置いていたが、今は、同じひとりぼっち同士だから、渡しているのに気づいて友達になりたい。
- 最初はうなぎを盗って、うなぎを食べさせたかったお母さんが死んでしまったから自分のせいだと思い渡していたが、渡していることに気づいて、兵十に「もう大丈夫だよ。」「ありがとう。」とお礼を言ってもらいたい。
- 今までは、兵十への償いで栗や、松茸を持って行ってけど、今は兵十にとったものをあげたい、食べてもらいたいと思って持って行っている。

児童の質問

- なぜ、ごんは兵十と加助の話を知りたいと思って、近づいたんでしょう。
- わざわざ家の中に入ったのは、気づいてもらって「関わりたい」とごんが思ったからではないでしょうか。

教師の発問

- 神様と思っている兵十に対して、ごんはなんで、次の日もくりを持って行ったのでしょうか。
- (ごんの最初の気持ちが悪かったら)ごんは兵十のうなぎを盗んだ後、どんな気持ちで栗や松茸を持って行っていたのかな。
- ☆ごんの思いは「気付いてほしい」だけかな。

質問に対する答え

- 気づいてもらって、許してもらおう機会がほしかったのではないかな。

- ☆ごんは同じひとりぼっちの兵十に自分を重ねて「さみしさ」を初めて知ったからそんな思いも出てきたと思います。
- ☆ごんは「さみしさ」から、「人のぬくもり」や家族の温かさなどを求めて行っていたのではないかな。

ごんは、いたずらの後、兵十を知っていくことで、兵十への思いが変わっていった。

ふりかえり

【B 評価】

☆他者の意見の良いところや、疑問点を書くことができている、自分の意見と比べて書くことができている。

【A 評価】

☆B 評価に加えて、次のような内容が書かれている。

○ごんの気持ちが変わらない理由に対し、叙述をもとに書くことができている。

○作品を通して、ごんの気持ちの変化を描いた「作者」の新美南吉について自分の意見を書くことができている。

○ごんの行動や思いを自分に置き換えて表現している。(例) ごんのように自分も親に褒めてほしくて、お手伝いしていることに気づいてほしいことがあった。